



ほ場ごとの生育(莖数)を確認して“中干し開始”しましょう

コシヒカリ生育状況(6月8日調査:抽出調査地点平均値)

5月の高温・多照で順調に推移していた水稻の生育は、6月初旬の低温等の影響により、生育がやや停滞しています。

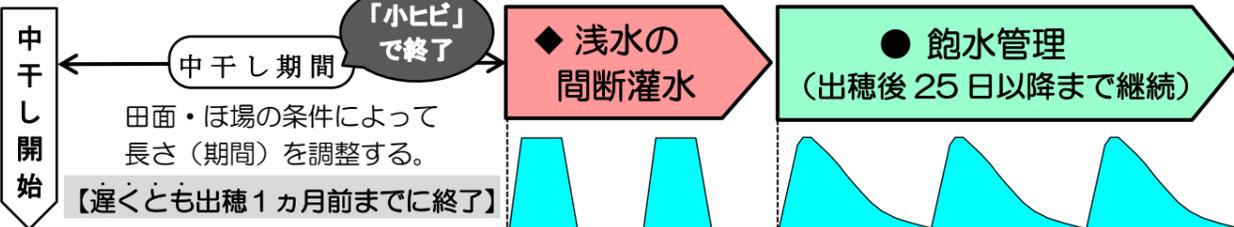
- ① 連休植えのほ場では、十分莖数を確保しています。“直ちに中干しを開始”してください。
- ② 連休以降に移植したほ場では、ほ場ごとの生育量(莖数)を確認してから、中干しを開始してください。

地区	田植日	草丈(cm)	莖数(本/m ²)	葉数(葉)	葉色(SPAD)
寺泊	5/8	29	235	6.7	34.9
和島	5/6	32	192	7.0	36.2
出雲崎	5/5	32	323	7.5	36.7
与板	5/15	30	142	6.5	31.2
三島	5/11	29	187	5.9	34.0
こしじ	5/12	30	209	7.1	35.8
平均	5/10	30	208	6.7	34.8
指標値	5/10	30	230	6.5	38.0
草丈:並		莖数:やや少ない			
葉数:並		葉色:淡い			

1. 中干し以降の水管理

(1) 水管理の手順

中干しは“小ヒビが入る程度”で終了し、急な湛水は根腐れや下位葉の枯れ上がりを生じさせやすいので、「浅水の間断灌水」の後、徐々に「飽水管理」に移行しよう！



(2) 水管理のイメージ

作業内容	水管理の概要	ポイント
① 入水	田面の高い部分が隠れる程度まで入水します。	深水にし過ぎない
② 湛水	根の機能低下防止のため、湛水期間は“1~2日程度”とします。	長期間湛水しない
③ 落水	入水完了から1~2日程度経過したら水尻をはらい落水し、田面が乾ききる(田面が白くなる)前に「①入水」を開始します。	乾かし過ぎない
◆浅水の間断灌水	①~③の水管理を繰り返し行い、徐々に「飽水管理」に移行します。 田面が乾き過ぎる前に「入水」しよう！	

ポイント 田面が白く乾かないうちに入水！

いもち病の発生源となる「補植苗」は、直ちに除去しましょう！

飽水管理へ移行します

①'入水	水田内の溝や足跡から水がなくなる前に入水を開始し、田面の高い部分が隠れる程度まで入水します。	深水にし過ぎない
②'自然落水	水尻は止水、自然減水で田面に水がなくなり、溝や足跡の底の水がなくなる前に「①'入水」を開始します。	乾かし過ぎない

①'~②'の水管理を出穂後25日以降まで繰り返し行い、根の健全化と地耐力の維持に努めます。

田面の高い部分が隠れる程度まで入水

自然減水し、足跡や溝に水がなくなる前に再び入水

この状態は乾かし過ぎです！

この水管理を繰り返す！

ポイント 足跡や溝の水がなくなる前に入水！

2. 中間追肥

ケイ酸の施用は、高温条件下での登熟に効果があります。ケイ酸質肥料の施用で“異常気象に強い米づくり”をしよう！

肥料区分	資材名	施肥量	使用時期
ケイ酸質肥料	スーパーシリカプレミアム	20~40 kg/10a	出穂前30~40日頃
	ウォーターシリカ	15 kg/10a	出穂前30日頃
加里肥料	けい酸加里プレミア34	20~40 kg/10a	出穂前40日頃
	塩化加里60%(粒状)	7~10 kg/10a	出穂前40日頃
燐酸肥料	マグコーブ	20 kg/10a	出穂前30~40日頃

ケイ酸の施用(中間追肥)は、①根張りの促進による倒伏軽減、②登熟向上による乳白粒の発生軽減と食味向上、③いもち病・ごま葉枯病への抵抗性の向上、また、近年のような高温登熟条件下では、根の活性を高めることにより、養水分の吸収を活発にさせ、④葉の蒸散が盛んになることで稲体温度を下げる効果が期待でき、高品質・良食味米の生産につながります。

3. カメムシ対策

全地域一斉による農道・畦畔、雑種地等の草刈り・除草の徹底により、カメムシの発生密度を低下させましょう！

第2弾

第1回 一斉草刈りウィーク

6月11日(日)~17日(土)実施!

重点対象雑草

メヒシバ、スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、ナギナタガヤ

ポイント 雑草種子を結実させない！

斑点米カメムシの発生を防止するため、畦畔を含めた水田内外の除草を徹底しよう！

~~営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ~~

次回稲作情報: 6月下旬「生育状況、穂肥、病害防除」(予定)

